入念な事前準備と柔軟な講義展開の必要性

教職実践開発専修　　有　村　久　春

０　担当講習の概要

私が担当した講習細目は，必修科目の②－Ｄ「子どもの生活の変化を踏まえた適切な指導の在り方」である。この細目では，生徒指導及び学級経営の基本理念と実践上の課題等を理解すること，カウンセリングの考えを生かした指導・援助のあり方を理解することの２点を目標にしている。特に，前者の具体内容としては，居場所づくりと集団形成の在り方，学級づくりと学級担任の役割，生活習慣の変化を踏まえた生徒指導，社会的･経済的環境の変化に応じたキャリア教育など，今日的な生徒指導上の課題を重点的に扱うものである。

実施日・会場は，７月31日の高山会場と，８月４日の岐阜大学会場である。前者は遠隔地受講者への対応として，高山会場（受講者数30名）での対面講義と，中濃サテライト会場（同12名）および東濃サテライト会場（同９名）でのテレビ会議システムによる遠隔講義である（前者の合計受講者数41名）。また，後者では受講者145名の対面講義である。それぞれ場所的にも人数的にも，タイプの異なる状況での試行を体験することができた。

あえてこの条件での感想を言うと，テレビによる遠隔講義は臨場感に欠け，受講者との一体感が持ちにくい（私がこのシステムによる講義を初めて体験したこともあるが），また，100人を超える対面講義の中では受講生への問い掛けやグループ討議，意見交換などが十分に行えない，などが課題とされよう。以下に詳細を述べるが，受講者の前向きな受講態度に支えられながら，全体的にはおおむね順調に講習を終えたものと考えている。

１　事前の準備

必修科目では，＜教育の最新事情に関する事項＞を講義することとされている。ただ，受講者に本細目にかかわる最新事情を理解してもらうには，その内容である生徒指導・学級経営・カウンセリングに関する＜基礎的な事項の理解＞もあわせて講義する必要がある。この考えから，次のような３種の講習資料を準備した。ここでは，各資料の項目程度を示す。

(1) 冊子資料（17頁分　＊他の細目との合本）
- ①　生徒指導の基本理解（その機能性，指導方法の原理，予防的援助法など）
- ②　学級経営の基本理解（意義･目的，内容例，学級教師の在り方，学級集団の形成など）
- ③　問題行動等のデータ（文科省調査の数値の考察：いじめ，不登校，暴力行為など）
- ④　カウンセリングの考えを生かした指導・援助（ロールプレイングの演習例など）
- ⑤　生徒指導上の問題事例（例；万引き，暴力が収まらない，集団いじめ）
- ⑥　参考資料（学級経営診断チェックリスト，生徒指導体制の点検・評価のポイント）

(2) 当日配付資料（４頁分）
　① シラバス（細目の「ねらい」,「達成目標」,「講習内容の柱」を示す）
　② 冊子資料の概要（当日において特に活用したい資料を７点示した。ロールプレイングのシナリオ，問題事例，校内組織態勢の構想図，これまでの問題行動例など）
(3) パワーポイント資料（18枚分）
　生徒指導と学級経営，カウンセリング感覚に関する基本的内容及び問題行動等のデータ（19年度文科省発表の最新データ）を18枚にまとめて示す。

90分の講義材料としては，内容過剰と思うところである。しかし，受講者の教職経験や本講習の趣旨等から考えて，講義時間内に取り扱わない内容があっても構わないものと判断した。とりわけ，冊子資料に掲載した内容については，受講者が持ち帰り，その後の教育活動に参考にしてくれることを期待した。したがって，講義時間中に取り扱う内容は主として（2）と（3）の資料を中心とするように準備した。また，準備作業を進めるに当たって，事前の数回にわたる全体会議や細目担当者間での情報交換及び細目内容の検討等が＜心の準備＞としても有効であった。

２　講習の実際

主に，次のような展開で進めた。　　＊印：受講者の状況や反応例

① 本細目の到達目標と講義概要を知る（→ シラバスを用いて：５分程度）
　本講義では，細目のうち生徒指導と学級経営に視点を当て，それにかかわる教師のカウンセリング感覚のもち方を理解することを伝える。

② 生徒指導上の課題を把握する（→「これまでの主な問題行動と対策」の資料より:15分程度）
　＊ 重大な事件等（例：いじめ自殺，殺人事件）の対応策として，スクールカウンセラーの配置や出席停止制度の明確化，いじめの定義の見直しなどが行われている。
　＊ 突発的・粗暴的な暴力行為が顕在化し，「よい子」の問題が気がかりである。
　＊ 学校裏サイトやネットいじめなど，指導上の対応に苦慮する状況が起きている。

③ 学級経営の現状を把握する（→ 受講者３～４人の簡単な話し合いから：15分程度）
　＊ 子ども個々の発達に応じた援助を，これまで以上に丁寧に行う必要がある。
　＊ 学習の目的に応じた集団経営の工夫（特に人間関係）が求められる。
　＊ 保護者との連携を含めた学級経営の必要性を痛感している。
　＊ 子どもと向き合うことの重要性を認識しているが，時間的な余裕がない。

④ カウンセリング感覚を身に付ける（→ シナリオによる演習：25分程度）
　校種別のシナリオを選択し，二人組でロールプレイングの演習を行う。
　＊ 子どもの役になりきることで，子どもの悩みを感じることができる。
　＊ 気持ちを聴いてもらうだけで安心する。もっと生徒の話を聴ける教師でありたい。
　＊ 単に聴くだけでは，解決しない状況も少なくない。つい対処法を優先しがちになる。

⑤ 問題行動等のデータに学ぶ（→ パワーポイント資料による：25分程度）
　いじめ，暴力行為，不登校，中途退学等に関する最新データや事例等を紹介しながら，子

ども理解や学校体制の在り方などを解説する。

⑥　本細目のまとめをする（→ シラバスを用いて：5分程度）

再度目標を振り返り，受講生と一緒に細目の内容を確認する。特に，生徒指導と学級経営がもつ教育の機能性を日々の教科等の指導に生かすことによって，問題行動等の予防に資することの重要性を伝える（事後評価の記入を受講者にお願いして，終了する）。

以上，①～⑥のような講義展開とし，主に「課題の理解」「演習の体験」「データの解説」の三つのステップで構成した。それぞれの時間配分も，ほぼ３等分になるように配慮した。

しかし，それを振り返ると，改めていくつかの反省点や改善点に気づくところである。

・　導入が最も難しい。学部学生等の授業の場合も同様であるが，導入時において受講者のモチベーションを如何に感得するかが，講義全体のプロセスをつくるように思う。このことの重要性は，校種（小・中・高等学校）と年齢（30歳代・40歳代・50歳代）の多様さへの対応とともに，本講習の特殊性（法的な裏付けによる強制的側面）にも配慮しなければならないことを意味していよう。これらの状況に，受講者たちがマイナスのイメージをもって参加することが予想されることである。ただ，今回の試行では県教委等との連携及び協議等により，このことはほぼ解消されていたと思う（次年度からの本実施ではその保障はない）。

・「教育の最新事情」の伝達に焦点を当てる。必修科目においては，もっとも重視しなければならない点であると考える。しかし，私の講習の実際では，いじめや不登校及び暴力行為等の最新のデータを伝えることに終始し，そこから析出される＜最新の問題点＞を具体的に検討するまでには至らなかった。例えば，教師の多忙さのゆえに子どもと向き合う時間的な余裕を失っていることから，生徒指導に不可欠な予防的指導と対応を粗にしているのではないか（例：子どもと楽しく遊ぶ，保護者と話し合い信頼関係をつくる）。また，学校裏サイトやネットいじめの問題等に学校・教師はどのように応じることがよいのか，などである。

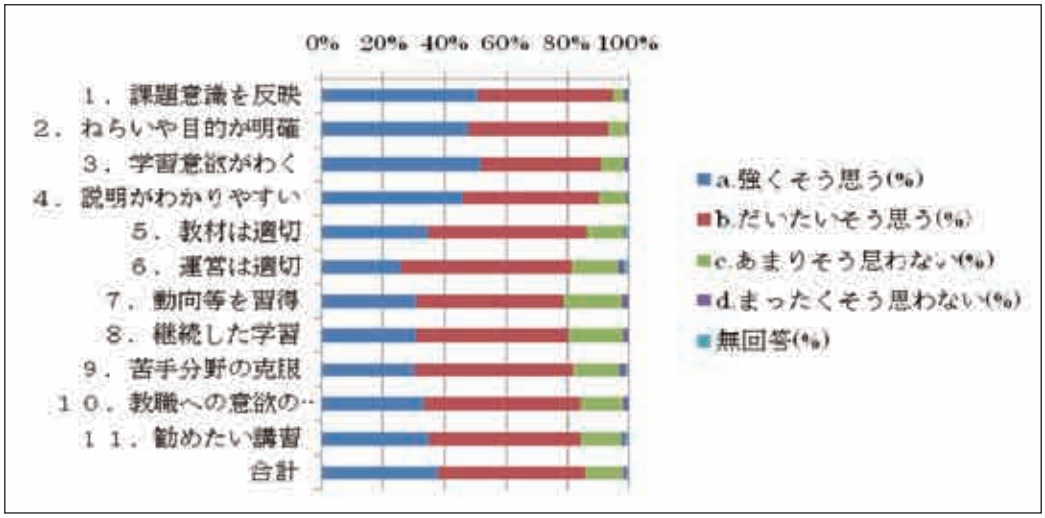
・　講義と演習のバランスをとる必要がある。結論的に言えば，90分の講義中に何らかのカタチで演習を構成することがよいと考える。その成果は，言うまでもないが受講者の人数に大きく左右される。高山会場では演習にふさわしい人数（対面で30名）であったため，ほぼ全員にロールプレイングの体験状況を聞くことができた。ただ，サテライト会場の受講者とのコミュニケーション交流は十分ではなかった（言語的な会話はほぼ皆無）。岐阜会場（対面で145名）では，時間的な配分の関係からそれを一部の受講者に限らざるを得ない面があった。また，受講者は１日４コマの講習を受講することから，どちらかに偏った構成では心理的・体力的にも困難な状況が生じることが考えられる。

・　事前のシュミレーションを十分に活かす。受講者側にしても実施担当者側にしても，やり直しは利かない。ワンチャンスである。今回は試行であることもあって，同じ講義を担当する者同士で，教材の選択や展開の在り方，事例等の取り上げ方等についていくつかのパターンを話し合う機会をもった。例えば，最初に事例を検討した場合の展開をどうするか，講義を中心にした場合に受講者の興味や意欲をどのように吸収するかなどである。この学び合いを私が実際に活かせたのかどうか，その点はおおいに反省したい。しかし，①～⑥を展開していくうえで，事前の検討が参考になっていることは否めない事実である。

3　講習の評価

担当者としては，２回の試行を終えて，ほぼ「それでよし」としているところである。試行実施後（平成20年９月）に，大学当局により「平成20年度免許更新講習プログラム開発委託事業報告書」が作成されている。それによると，本細目の受講者の事後評価は，以下の通りである。

D．子どもの生活の変化を踏まえた適切な指導のあり方



【評価結果の考察】

・　合計の数値において，（ａ＋ｂ）の選択が8割を超えている。本細目の講習内容がほぼ適切あったものと受け止めたい。受講生との間に大筋の共通理解があるものと思う。

・　「運営」や「教材」「動向」等に問題点がある。90分の講習内容で，どのような教材を用意し，それをどう展開し，今日的な教育動向をどのように伝達するのかなどについて，受講生が的確にしかも手厳しく評価している。謙虚に受け止める必要がある。

・　予備講習を通じて痛感したことでもあるが，講義の目的を的確に共有しあい，その細目の課題を意識させて展開することの意義を改めて問いたい。

【講義の課題】

・　本細目の主題である生徒指導と学級経営に関して，受講生の課題意識を講義運営に生かし切れていない面がある（5.6.7の項目の結果から）。受講生の実践上の問題点や悩みをどのように聞き，それをどこで生かすのかを迷いながら展開した状況がある。結果的に，授業者が一方的にある一つのエピソードとして語るに過ぎない面に一因がある。

・　１コマの枠内に，多くの内容を詰め込もうとした。一つの内容に十分に入り込めないままに，話題を変えすぎた。例えば，生徒指導の一面から論議し，それを踏まえたカウンセリングマインドの在り方を言及することでもよかったのではないか。

【今後の改善点】

・　細目にあるねらいを焦点化し，それをベースにした主題の掘り下げを行う必要がある。

・　受講生の課題意識の把握と，その生かし方を工夫する必要がある。ただ，課題把握の必要性をどのように考えるのか，各細目に応じた検討が求められる。

・　とりわけ，本細目にあっては，各学校段階で課題性や内容の取扱い，児童生徒とのかかわり方に相当の差異がある。その克服が講習後の的確な実践化に資するものと考える。